『順調に 4 位キープも路面とタイヤが後半合わず、苦しい戦いに』



シリーズ名：2026 AUTOBACS SUPER GT シリーズ
大会名：2026 AUTOBACS SUPER GT Rd.3「2026 AUTOBACS SUPER GT Round3 MOTEGI GT 250km RACE」
レース距離：1 周 4.801km×53 周

11 月 7 日（土）予選　天候：晴 コース状況：ドライ
公式予選：GT500 クラス 4 位：1:37.009

秋晴れのモビリティリゾートもてぎで開催される 2 連戦の一つ、第三戦 マレーシア・セパンの開催延期に伴う代替レースとして 1DAY で予選と決勝が行われる。
第三戦として開催されるが、ウエイトは獲得ポイント X サクセスウェイト 1kg と半分となり、決勝は今期初の 250km レースとなる。

■専有走行

2DAY の前日に行われた占有走行。晴れてはいるものの、前日の雨の影響から路面が濡れており、ウエット宣言が出された中、前半の混走時間帯で阪口選手が中断時間も含め 15 周周回し、5 周目に出した 1:37.528 が混走時間でのトップタイムとなる。
FCY 訓練後の 500 クラスの占有走行では国本選手がコースインするものの、タイムアタックは行わず、車両のチェックに終始。4 周目に出した 1:39.909 がベストラップとなり、混走時間帯で出した 1:37.528 が全体 3 位のタイムとなった。

■予選
第三戦での予選出走ドライバーは阪口選手。
1DAY でのレースとなるため、午前中に予選が行われることとなり、9 時の予選開始時の気温/路面温度が 15 度/18 度と、昨日の占有走行時（9 時）の路面温度 19 度と変わらないが、通常、路面温度が上がりきった午後に行われる予選としてはタイヤに厳しいコンディションとなる。
9 時半に 1 回のみの 15 分間の予選が開始となる。いつものごとく予選開始直後はどこも車は出ず、静かなスタートとなる。残り 12 分で 2 台が、残り 10 分で 19 号車を含む 9 台がコースに出ていく。残りの 3 台は残り 8 分でコースインしていった。
19 号車は 50 秒台前半で 3 周、そして、4 周目に 1:42.836 にて予選終了ギリギリにメインストレートを抜けて 1 発のアタックに入ると、1:37.009 と暫定 4 位のタイムでアタックを終了。その後、他車が 19 号車を上回ることがなく 4 位にて予選が終了。
予選結果は、64-16-14-19-24-12-36-100-38-39-37-23-8-17 となります。
午後からの決勝は 2 列目からのスタートとなります。
今期は後半に向けて調子が上がってきた 19 号車。今日、明日との 2 連戦で 1997 年から述べ 30 年共に戦ってきたヨコハマタイヤとの集大成をお見せするため、爆走していきます。
皆様のご声援、よろしくお願いいたします。

11 月 7 日（土）天候:晴 コース状況: ドライ
決勝 12 位

モビリティリゾートもてぎは朝からの晴天が続き、空は雲一つ無い秋晴れの空。2DAY の決戦の前半戦の第三戦。
明日の最終戦に向け、今日の第三戦の結果次第で最大 11 チームが優勝の可能性が有るため、明日の決勝へつなげる激しい戦いが予想される。
その中、19 号車は一矢報いるため、爆走を誓う。

■ ウォームアップ走行
決勝レース前に 20 分間のウォームアップ走行が実施され、19 号車は決勝に向けてのチェック走行を行い、10 周周回で、1:39.098 のタイムで 4 番手となりました。

■決勝
スターティングドライバーは国本選手。気温/路面温度は 19 度/22 度と低め。
14 時に車が隊列を成して動き出し、2 周のフォーメーションラップを経てスタートが切られた。大きな混乱もなく綺麗なスタートが切られ、19 号車はウイービングをしながら前の 3 台についていく。しかし、そのオープニングラップで、300 クラスで 3コーナー入り口が起源の多重クラッシュが発生し、FCY 後、SC が出ることとなった。複数台が絡み、複数個所で止まったことで壊れたパーツとオイル処理の為、再開に時間がかかり、8 周目で再スタートとなる。
ウイービングしながら前の 3 台を追いかける 1 9 号車は 4 位をキープ。そのまま、前後 1 秒以内をキープしながら周回を重ねていく。16 号車と 14 号車との 2 位争いが激化する中、前の 2 位集団を追いかける 19 号車は後ろから 12 号車の追い上げを受ける形となり、さらに 300 クラスに追いつきコースが混雑すると、タイヤが本来のグリップを発揮せずに 16 周目に 12 号車にパスされて 5 位に落ち、さらに 24 号者にもパスされ、19 周目のメインストレートで 39 号車にパスされると、その周にピットに入り、フルサービス、ドライバーチェンジを行い、暫定 13 位でコースに復帰。
ピットに入る周数により、アウトラップで進まない他の車両との混乱で、10 番手争いが激化する中、23 周目に 17 号車をパスすし暫定 12 位に。さらに 24 周目に前の 24 号車をパスすると、さらに前の 37 号車に隙あらばと攻め、10 位にポジションアップする。直後、37 号車が後ろから突っ込む形で接触し、リヤのエアロパーツが大きく破損したが周回を続けていくことを指示し周回を重ねる。
後ろの 24 号車と 10 位争いが激化する中、31 周目に 24 号車にパスされ、順位を 11 位に。さらに、33 周目の 90 度コーナーで 17 号車にパスされて 12 位まで落としてしまう
38 周目に 2 度目のピットに入り、タイヤ交換をしてコース復帰、13 位となる。前との差が大きく開き、事実上、勝負権がなくなった 19 号車は周回を重ねていき、結果、13 位でチェッカーを受けることとなりました。その後リザルトが改訂され 12 位になりました。
レースはスタート直後に SC が入り、8 周目で再スタート後、ポールの 6 4 号車が 2 位以下を少しずつ離すも、予選 6 位の 12 号車が 38 周目にトップに出ると、3 台による 2 位争いを尻目に 15 秒以上差を広げてトップでチェッカーを受

けることになりました。
暫定順位は 12-64-8-39-100-17-23-16-24-36-38-19-（以上完走）-37-14 となります。

※速報掲載までに、失格となった 14 号車が結果に控訴の意思を示したため、第 3 戦の GT500 の競技結果は控訴結果が確定されるまで留保されています。
次戦は、明日、引き続きモビリティリゾートもてぎでの最終戦となります。
ノーウェイトでのガチンコの勝負となります。今日の結果を糧に、明日は全力を尽くし、ヨコハマタイヤとの最後の戦いを誓い、表彰台トップを目指し、爆走していきます。皆様の応援、誠にありがとうございました。








決勝コメント【坂東監督】



『タイヤ無交換、左 2 本交換など作戦は考えていました。
国本選手のスティントの 15 周目までは問題なかったのですが
路面温度の変化と自分がチョイスしたタイヤが後半厳しくなってしまいました。
阪口選手には違うタイヤを履いて頂いたのですが
また厳しい状態になってしまいました。
チャンスがあっただけに申し訳ないです。
途中 37 号車に追突され、かなりリヤセクションを破損した状態で阪口選手はマシンも完璧な状態でない中、チェッカーを受けてくれました。

今回は新しいタイヤを勝負でチョイスした事に後悔はないのですが
悔しい苦しい戦いになってしまいました。
後 1 戦
横浜ゴムと戦ってきた 19 号車に応援よろしくお願いします。』

【国本選手】



『金曜日のフリー走行から新しいタイヤは好調だったので予選は期待して阪口選手がアタックしたのですが路面と気温の変化で他車の方がパフォーマンスは高かったです。
リザルトは満足しています。決勝に期待できる感じでした。
レースは序盤長い間 SC が入り、リスタート後もフィーリングが良く
タイヤと燃料をセーブしながらポジションをキープ出来ました。
他車がペースダウンした時に追い上げていける形だったのですが
PIT　IN 予定の 3 周目前からタイヤのグリップを失い、順位をドロップしてしまいました。
阪口選手も同じように交代後はペースよかったのですが中盤から後半に同じような形で
ドロップしてしまいました。予定外の PIT　IN もありましたが
明日は予選、決勝と気持ちを切り替えて頑張ります。』

【阪口選手】



『予選担当しました。金曜日のフリー走行から感触は良かったのですが予選日の路温と気温の変化が最大限のパフォーマンスを発揮できなかったとセクター4 に落下物があったのでタイムを落としてしまいましたがセカンドローだったのでまずまずでした。
レースは国本選手と同じように後半厳しくなってしまいました。新舗装になって読みが甘かったのかも知れません。明日は今日の悔しさを取り返せるように精一杯走りたいと思います。』

沢山の応援ありがとうございました。
SUPERGT
https://supergt.net/pages
BANDOH
http://www.bandohracing.com/